

## 骨盤臓器脱、尿失禁、便失禁を伴う女性の性機能質問票（PISQ-IR）の日本語版作成と言語学的妥当性の検討

<sup>1)</sup> 東京女子医科大学東医療センター骨盤底機能再建診療部, <sup>2)</sup> みやびウロギネクリニック,  
<sup>3)</sup> 独立行政法人労働者健康福祉機構総合せき損センター泌尿器科, <sup>4)</sup> 日本大学医学部泌尿器科,  
<sup>5)</sup> 東邦大学泌尿器科, <sup>6)</sup> 東京大学医学部附属病院泌尿器科,  
<sup>7)</sup> 千葉大学大学院看護学研究科, <sup>8)</sup> 国際医療福祉大学薬学部

巴 ひかる<sup>1)</sup> 井上 雅<sup>2)</sup> 木元 康介<sup>3)</sup> 高橋 悟<sup>4)</sup>  
 永尾 光一<sup>5)</sup> 本間 之夫<sup>6)</sup> 小林 美亜<sup>7)</sup> 池田 俊也<sup>8)</sup>

### 要旨：

(目的) Prolapse/Urinary Incontinence Sexual Questionnaire, IUGA-Revised (PISQ-IR) の日本語版を作成し、その言語学的妥当性を検討する。

(対象と方法) PISQ-IR の翻訳は、International Urogynecological Association (IUGA) の国際的事業として行われるため、日本語訳作成について IUGA からの承認を得たのち、IUGA のプロトコル(IUGA からの承認取得→順翻訳→コミュニティー・レビュー→逆翻訳→IUGA からの承認)に従って行った。初回翻訳は2名の泌尿器科医で行い、さらに4名の泌尿器科医、1名の QOL 研究者が加わり日本語訳を完成させた。コミュニティー・レビューは骨盤臓器脱または腹圧性尿失禁患者 20 名を対象として半構造化面接を行い、いくつかの文言の変更および、より明確に回答できるよう独自の説明文を追加した。これを逆翻訳して IUGA の翻訳ワーキング・グループに提出した。

(結果) IUGA の翻訳ワーキング・グループからの質問および訂正指示に従い日本語訳を修正し、さらにこれを逆翻訳して再提出した。

(結論) 多段階の検討過程を経て、言語学的妥当性のある、IUGA からの承認を得た PISQ-IR 日本語版が完成した。

(日泌尿会誌 105(3) : 102~111, 2014)

キーワード：女性性機能障害、質問票、言語学的妥当性

### 緒 言

男性性機能障害 (male sexual dysfunction ; MSD) については勃起障害 (erectile dysfunction ; ED) に対する治療薬の発売もあって関心が高いが、女性性機能障害 (female sexual dysfunction ; FSD) に関する研究はまだ少ない。また、女性性機能に関する質問票は、Female Sexual Function Index (FSFI)<sup>1)</sup>、Sexual Function Questionnaire (SFQ)<sup>2)</sup>、Prolapse/Urinary Incontinence Sexual Questionnaire (PISQ)-31<sup>3)</sup> やその short form である PISQ-12<sup>4)</sup>、Profile Female Sexual Function (PFSF)、Female Sexual Distress Scale (FSDS) などがある<sup>5)</sup> が、わが国で言語学的妥当性が検証されたものは、FSFI<sup>6)</sup> と SFQ<sup>7)</sup> のみである。

International Urogynecological Association (IUGA) は

2008 年に世界各国から専門家を招集し、骨盤底疾患 (pelvic floor disorders ; PFD) のある女性の性の健康に関する文献の要約と現在国際的に使用されている性機能評価ツールの評価を検討した結果、評価ツールのほとんどは北米の単一文化的背景の中で開発され、その後他の言語に翻訳されていることがわかった。PFD の評価ツールの大半は作成時に多文化主義を想定していなかったため、翻訳の際には評価尺度の一般化が制限されてきた。これに対して IUGA は、多文化的枠組みに基づき、かつ翻訳して複数の言語や文化で使用の際に妥当で信頼のおける基本ツールとなり得る新たな性機能評価尺度として Prolapse/Urinary Incontinence Sexual Questionnaire, IUGA-Revised (PISQ-IR) を作成した<sup>8)</sup>。さらに IUGA ではこのツールを他の言語に翻訳する際の一連のプロトコルを策定し、世界各国の言語に翻訳する事業を開始

受付日：2013 年 10 月 20 日，受理日：2013 年 12 月 3 日

巴ひかる：東京女子医科大学東医療センター骨盤底機能再建診療部/泌尿器科〔〒116-8567 東京都荒川区西尾久 2-1-10〕

E-mail: tomoeur@dnh.twmu.ac.jp

© 2014 The Japanese Urological Association

した (<http://www.iuga.org/?page=pisqir>).

## 対象と方法

### 1. 日本語版の作成

日本語版の作成はすべてIUGAのプロトコール(IUGAからの承認取得→順翻訳→コミュニティー・レビュー→逆翻訳→IUGAからの承認)に従った。なお、PISQ-IR日本語訳作成は、日本泌尿器科学会の公認を得て、日本排尿機能学会と日本性機能学会の協同事業として行われた。

PISQ-IRの翻訳は、全世界的なIUGAの事業として行われるため、IUGAより求められた審査書類および日本語版作成グループ代表者の履歴書を提出し、IUGAの翻訳ワーキング・グループによる審査を受け、2011年6月14日に正式に承認を得て行われた。

これまでの翻訳作業では、「言語学的同等性」の確立に重点を置いていたが、言語学的同等性によって必ずしも「文化的等価性」が確立されるわけではなく、近年の翻訳作業では文化的等価性の確立に焦点が移っている。そこでIUGAでは文化的等価性を重視し、具体的な意味を伝える用語を各国の言語で特定することを翻訳の目的とし、言い回しの単純化や精緻化を許可している。そこで、文化的等価性を踏まえた上で翻訳を行った。

順翻訳として、初回翻訳は、英語および日本語の読み書きができ、米国/英国および日本の性規範を熟知し、POP, UI, FIについても医学的に理解している2名の日本人翻訳者(泌尿器科医, 男女各1名)が別々にPro-lapse / Urinary Incontinence Sexual Questionnaire, IUGA-Revised (PISQ-IR) 原作版を英語から日本語に翻訳し、さらに4名の泌尿器科医と1名のQOL研究者が加わり7名の委員で協議しながら1つの日本語訳としてまとめた。

### 2. コミュニティ・レビューによる順翻訳の質の評価

順翻訳された設問や回答に対して、患者が用語を正しく理解した上で回答できるかどうか、また表現が適切であるかどうか検討するために、尿失禁(urinary incontinence; UI)または便失禁(fecal incontinence; FI)または骨盤臓器脱(pelvic organ prolapse; POP)を有する患者を対象とし、個別に半構造化面接によるコミュニティー・レビュー(計測対象者からの指摘や意見等を踏まえた翻訳内容の検討)を行った。内訳は、性的活動を有する患者5名、性的活動を有さない患者5名の計10名とした。

その個別面談は、翻訳に関わっていない看護師が実施した。また、面談を実施するにあたって、患者のプライバシー保護に十分配慮した個室にて行った。インタビュアーは、この質問票がどのような目的で使われるのかを患者に説明した後、質問票への回答を自己記入方式で依頼した。回答が終了した後、全体の印象(理解のしやすさ、質問数など)、わかりにくかった質問、選択しにくかつ

た回答、説明文、質問文、選択肢の表現などについて意見を求めた。患者から問題が指摘された箇所については、その理由や言い換え表現についても意見を求めた。

その結果を踏まえ、順翻訳で作成された日本語版を修正し、前群とは異なる患者群で性的活動を有する患者5名、性的活動を有さない患者5名の計10名に質問票への回答を依頼し、同様に意見を求め、修正した日本語版の妥当性について確認を行った。

なお、コミュニティー・レビューは、東京女子医科大学東医療センターの倫理委員会で承認を得た上で実施した。

### 3. IUGAの翻訳ワーキング・グループのレビューと逆翻訳

次に、IUGAの翻訳ワーキング・グループが修正された日本語版のレビューを行い、さらに文言を修正し、精錬させた。この改定版は、日本語訳(順翻訳)作成に関わっていない、英語を母国語とする翻訳者が英語に逆翻訳した。それから、IUGAで用意された対比表に、原作版、順翻訳、逆翻訳を順に並べ、説明文の追記や意識など説明が必要な場合にはそれをコメント欄に付記してIUGAの翻訳ワーキング・グループに提出した。この際には、IUGAのプロトコールに則り、コミュニティー・レビューを行うことの承認を得るための倫理委員会での証明書と同時に提出した。

## 結 果

### 1. コミュニティー・レビューによる日本語版(順翻訳)の修正

コミュニティー・レビューで得られた意見や指摘事項を踏まえ、下記のごとく日本語版案の表現、語句の修正を加えた。修正日本語版については、回答を依頼した対象患者から、質問や意見等はなく、特段の問題点は抽出されなかった。

・問1 より明確に回答ができるよう、“性的活動のある、なしは、自分が性的にアクティブであると考えerかどうかの主観的な評価です。性的活動とは、膣性交、愛撫、前戯、自慰(マスターベーション)、性的な空想などが含まれます。”の一文を加えた。

・問2 より明確に回答ができるよう、“あなたに性的活動がない理由”の部分にアンダーラインを引いた。日本では□の中に✓をすることにあまり慣れていないため、“各質問につき最もよくあてはまる□をひとつだけ選び✓をつけて下さい。”の一文を加えた。

・問8b Shameを“恥辱感”と訳したところ、一般的に使われる言葉でないとの意見があり、“恥ずかしさ”に変更した。

・問8c Fearを“恐怖感”と訳したところ、意味がわからないとの意見があり、“不安”に変更した。

・問11 性交をしていない人が選択に迷わないよう、新しく“6□性交はしていない”の項目を設けた。

・問19b Adequate-Inadequateを“良い—悪い”と訳

したところ、意味がわからないとの意見があり、“十分—不十分”に変更した。

・問 19c Confident-Not Confident を“自信がある—自信がない”と訳したところ、意味がわからないとの意見があり、“心配ない—心配”に変更した。

## 2. IUGA の翻訳ワーキング・グループによる日本語版質問票の確定

IUGA の翻訳ワーキング・グループからの指摘事項に基づき、以下の修正が行われた。この確定版は、IUGA からの承認が得られた。そして、言語学的妥当性を有する PISQ-IR 日本語版 (the Japanese version of the PISQ-IR) が完成した (付録)。

・パート 1 Factors Influencing the Decision not to have Sex を“セックスをしないという決定に影響している要因”と訳したところ、逆翻訳は Factors that influenced your decision となった。これに対し、影響は過去形より現在形が望ましいとの指摘を受け、日本語訳を“セックスをしないという決定に影響する要因”に変更したが、逆翻訳は Factors that affected the decision not to engage in sex となった。初回逆翻訳の時点で、変更が可能でなければそのままでも構わないともコメントされており、2 回目順翻訳が承認された。

・問 2, 5, 20 選択肢で Somewhat Disagree を“あまり同意しない”と訳したところ、逆翻訳は Don't agree very much となった。これに対し、disagree is not equivalent to a low level of agreement. との指摘を受けたが、disagree に該当する日本語がないことを説明し了解された。

・問 3, 8c Fear をコミュニティー・レビュー後、“恐怖感”から“不安”に変更して訳したところ、逆翻訳は unease となった。Unease が fear を表わすかとの質問があり、“恐れ”に変更した。

・問 6 bothersome を“問題”と訳したところ、逆翻訳は problem となった。Problem は同意語ではなく、irk-some に近い日本語訳への変更を求められ、“問題になるくらい気になる”と変更した。

・問 8b Shame を“失禁や骨盤臓器脱のための恥ずかしさ”と訳したところ、この感情表現が全般的なものではなく特別な原因に基づくものに限定してしまうため、注釈を使用しない方がよいとの意見があり、削除した。

・問 14a, 16, 17 Your sexual desire を“あなたの性的欲求”と訳したところ、逆翻訳は Your sexual needs となった。これに対し、needs は身体的必要性を意味し、desire は欲することへの感情であり、desire と needs は同等ではないとの指摘を受け、“あなたの性欲”に変更し、逆翻訳は Your sex drive となり、承認された。

・問 15 “性的活動中に、あなたはどれくらいの頻度で物足りないと感じますか?”と訳したところ、逆翻訳は How often do you feel unsatisfied during sexual activity? となった。不満足の頻度についての質問ではないの

で翻訳し直すよう指示された。“あなたは性的活動の最中に、どれくらいの頻度でもっと求める気分になりますか?”と変更し、逆翻訳は How often are you in the mood to seek more in the midst of sexual activity? となり、承認された。

・問 19c Confident をコミュニティー・レビュー後、“自信がある—ない”から“心配ない—心配”に変更して訳したところ、逆翻訳は worry となった。意味合いとしては inferiorの方がまだ近いとの指摘を受け、“自信がある—ない”に戻した。

## 考 察

最近まで、FSD は MSD に比べ泌尿器科領域ではあまり研究されてこなかった。しかし FSD の罹患率は高く、1992 年の米国のコホート研究によれば 18~59 歳の女性 1,749 人における FSD の罹患率は 43%<sup>9)</sup>とされ、他の報告でも 30~50%<sup>10)</sup>で、加齢とともに増加する<sup>11)</sup>。

Female Sexual Function Index (FSFI) は FSD 一般についての代表的な質問票で、ED に対する質問票の International Index of Erectile Function (IIEF)<sup>12)</sup>の開発者である Rosen らによって開発された<sup>1)</sup>。札幌医科大学泌尿器科が日本語版試案を作成しインターネットで公開しているが、2011 年に高橋らによって改めて言語学的妥当性を検討した日本語訳が論文化され<sup>6)</sup>、これを用いて計量心理学的検討も報告<sup>13)</sup>された。FSD にはパートナーとの関わりが大きく影響する<sup>14)</sup>が、FSFI にはパートナーに関する質問項目がない点が欠点である。もうひとつの代表的な FSD 質問票である Sexual Function Questionnaire (SFQ) は同じく FSD 一般に対する質問票であるが、Sildenafil の FSD に対する臨床試験の薬効評価のため英国ファイザー中央研究所が中心となって開発され<sup>2)</sup>、パートナーとの関係が質問に盛り込まれた。日本語訳は大川らによって言語学的妥当性が検討されている<sup>7)</sup>。

一方、POP や UI は女性の QOL を低下させ、女性性機能にも深く影響を及ぼすことが知られてきた<sup>10)15)~21)</sup>。とくに 1990 年代に腹圧性尿失禁に対して tension-free vaginal tape (TVT) 手術や transobturator tape (TOT) 手術などの中部尿道スリング (midurethral sling) 手術が盛んになると、QOL の改善に関する論文が数多く発表され、FSD の改善についても報告された<sup>22)~24)</sup>。POP に対しても tension-free vaginal mesh (TVM) 手術を始めとする経陰的メッシュ手術が始まると急速に広まり、多くの女性の QOL が改善され FSD も改善したことが報告された<sup>25)</sup>。しかし FSD が改善する一方でメッシュによる合併症も発生した。陰壁へのメッシュ露出は代表的なメッシュトラブルであるが、メッシュの露出があればもちろん、露出がなくても性交疼痛症などが術後新規に発生することがあり<sup>25)~27)</sup>、術前術後の FSD の評価が重要であることが認識されるようになった。このほか過活動膀胱も FSD に影響を及ぼし<sup>28)</sup>、抗コリン薬による治療で改善す

ることも報告されている<sup>29)</sup>。

今回われわれが言語学的妥当性を検討した PISQ-IR<sup>8)</sup>には、その前身として PISQ-31<sup>3)</sup>とその short form である PISQ-12<sup>4)</sup>がある。PISQ-31 は、POP と UI を伴う性的活動性を有する女性の FSD を評価するツールとして Roger らによって開発された。Urwitz-Lane ら<sup>31)</sup>は尿失禁を尿流動態検査によって分類し、どのタイプの尿失禁も FSD を呈することを初めて PISQ-12 を用いて評価し報告した。PISQ-IR は、便失禁も FSD に大きな影響を及ぼすことを重視し、また性的活動のない女性に対しても評価可能な質問票になるよう、IUGA によって改変し作成された。今回 PISQ-IR の日本語訳作成にあたっては、すべて IUGA で決定した翻訳プロセスに則って行われた。それは通常の翻訳と異なり、言語学的同等性だけでなく、各国における文化的等価性も重視していた。順翻訳を行うにあたり、Shame, Fear, Adequate, Confident

など適確な日本語に変換することが難しい英語があった。中でも Bothersome は最も日本語訳が難しく、Overactive bladder questionnaire (OAB-q) の日本語版<sup>31)</sup>では“困る”と訳されていたが、われわれは“問題”と訳して逆翻訳が problem となり、IUGA の翻訳ワーキング・グループより problem は bothersome と同意語ではなく、irksome に近い日本語に変更するようとのレビュー・コメントを得た。“問題になるくらい気になる”と訳したところ逆翻訳が bother となり、承認が得られた。

この質問票を使用することで、POP, UI, FI を伴う女性の FSD の臨床研究を世界共通の質問票を用いて行うことが可能になったといえる。今後さらに IUGA のプロセスにもとづき、性的活動のある患者 120 名および性的活動のない患者 100 名に対して本質問票を用いた計量心理学的検討を行う予定である。

## PISQ-IR 骨盤臓器脱、尿失禁、便失禁を伴う女性の性機能

### 中心的な質問

#### ・全1項目 (問1)

問1 次のうちあなたに最もあてはまるのはどちらですか？

性的活動は全くない。 1  → 問2 性的活動なしへ進む。  
性的活動がある (パートナーの有無は関係ない)。 2  → 問7 性的活動ありへ進む。

### パート 1 : セックスをしないという決定に影響する要因

#### ・全12項目 (問2 ~ 問6)

もしあなたに性的活動があるなら、この□に☑して、3ページのパート2に進んで下さい。→□

\*性的活動のある、なしは、自分が性的にアクティブであるかどうかの主観的な評価です。  
性的活動とは、膣性交、愛撫、前戯、自慰(マスターベーション)、性的な空想などが含まれます。

問2 以下は性的活動がない理由のリストです。各項目があなたに性的活動がない理由として、どれくらい強く同意しますか？

各質問につき最もよくあてはまる□をひとつだけ選び☑をつけて下さい。

	強く 同意する	いくらか 同意する	あまり 同意しない	全く 同意しない
a パートナーがいない	<input type="checkbox"/> <sup>1</sup>	<input type="checkbox"/> <sup>2</sup>	<input type="checkbox"/> <sup>3</sup>	<input type="checkbox"/> <sup>4</sup>
b 関心がない	<input type="checkbox"/> <sup>1</sup>	<input type="checkbox"/> <sup>2</sup>	<input type="checkbox"/> <sup>3</sup>	<input type="checkbox"/> <sup>4</sup>
c 膀胱や腸の問題(尿または便失禁)または骨盤臓器脱(腔内に膨らみがある、または膨らみを感じる)のため	<input type="checkbox"/> <sup>1</sup>	<input type="checkbox"/> <sup>2</sup>	<input type="checkbox"/> <sup>3</sup>	<input type="checkbox"/> <sup>4</sup>
d 私の他の健康上の問題のため	<input type="checkbox"/> <sup>1</sup>	<input type="checkbox"/> <sup>2</sup>	<input type="checkbox"/> <sup>3</sup>	<input type="checkbox"/> <sup>4</sup>
e 痛み	<input type="checkbox"/> <sup>1</sup>	<input type="checkbox"/> <sup>2</sup>	<input type="checkbox"/> <sup>3</sup>	<input type="checkbox"/> <sup>4</sup>

問3 尿や便の漏れや、膣内のふくらみ（膀胱または直腸または子宮の脱出）に対する恐れは、どれくらい性的活動を避けたり制限したりする原因になりますか？

- 1  全くない  
 2  少し  
 3  時々  
 4  とても

問4 以下の各項目において、あなたのセックスライフについてどのように感じているかを、1から5までの中で最も良く表わす数字に○をつけて下さい。

		評価					
a.	満足	1	2	3	4	5	不満足
b.	十分	1	2	3	4	5	不十分

問5 以下の各項目に、あなたはどれくらい強く同意しますか？

	強く 同意する	いづらか 同意する	あまり 同意しない	全く 同意しない
a. 私のセックスライフに欲求不満を感じる	<input type="checkbox"/> <sup>1</sup>	<input type="checkbox"/> <sup>2</sup>	<input type="checkbox"/> <sup>3</sup>	<input type="checkbox"/> <sup>4</sup>
b. 失禁や骨盤臓器脱のために性的に劣っていると感じる	<input type="checkbox"/> <sup>1</sup>	<input type="checkbox"/> <sup>2</sup>	<input type="checkbox"/> <sup>3</sup>	<input type="checkbox"/> <sup>4</sup>
c. 失禁や骨盤臓器脱が私のセックスライフに及ぼしている影響のために憤りを感じる	<input type="checkbox"/> <sup>1</sup>	<input type="checkbox"/> <sup>2</sup>	<input type="checkbox"/> <sup>3</sup>	<input type="checkbox"/> <sup>4</sup>

問6 全体として、あなたが性的に活動的でないことは、あなたにとってどれくらい問題になるくらい気になりますか？

- 1  全くない  
 2  少し  
 3  多少  
 4  とても

性的活動なしの人に対しての質問はこれで終了です。  
 ご協力ありがとうございました。

## パート 2：性的活動ありの人 ・全21項目（問7～問20）

この調査の残りの項目は、この手の調査ではあまり質問されない話題に関する項目です。これに対するあなたの回答は秘密にしますし、あなたの主治医には報告されません。できるだけ正直にはっきりとお答え下さい。

問7 あなたはどのくらいの頻度で、性的活動中に性的興奮（身体的興奮または感情的興奮）を感じますか？

- 1  全くない  
 2  ほとんどない  
 3  時々  
 4  たいてい  
 5  ほとんどいつも

問8 性的活動中、あなたはどれくらいの頻度で以下の各項目を感じますか？

	全く ない	ほとんど ない	時々	たいてい	ほとんど いつも
a. 達成感	<input type="checkbox"/> <sup>1</sup>	<input type="checkbox"/> <sup>2</sup>	<input type="checkbox"/> <sup>3</sup>	<input type="checkbox"/> <sup>4</sup>	<input type="checkbox"/> <sup>5</sup>
b. 恥ずかしさ	<input type="checkbox"/> <sup>1</sup>	<input type="checkbox"/> <sup>2</sup>	<input type="checkbox"/> <sup>3</sup>	<input type="checkbox"/> <sup>4</sup>	<input type="checkbox"/> <sup>5</sup>
c. 失禁や骨盤臓器脱 のための恐れ	<input type="checkbox"/> <sup>1</sup>	<input type="checkbox"/> <sup>2</sup>	<input type="checkbox"/> <sup>3</sup>	<input type="checkbox"/> <sup>4</sup>	<input type="checkbox"/> <sup>5</sup>

問9 あなたはどれくらいの頻度で、あらゆるタイプの性的活動に伴い尿や便を失禁しますか？

- 1  全くない  
 2  ほとんどない  
 3  時々  
 4  たいてい  
 5  いつも

問10 あなたが過去に経験したオルガズム（性的絶頂感）と比べて、今のあなたのオルガズムはどれくらい強いですか？

- 1  かなり弱い  
 2  弱い  
 3  同じ強さ  
 4  強い  
 5  かなり強い

問11 あなたはどれくらいの頻度で、性交中に痛みを感じますか？（もしあなたが性交をしていないのであれば、6のに✓して次の質問に進んで下さい。）

- 1  全くない  
 2  ほとんどない  
 3  時々  
 4  たいてい  
 5  いつも  
 6  性交はしていない

問12 あなたにはセックス・パートナーがいますか？

- 1  はい → 問13 へ進む。  
 2  いいえ → 問15 へ進む。

問13 あなたのパートナーはどれくらいの頻度で、あなたの性的活動を制限するような問題（性的な興奮、性的欲求、勃起、などの欠如）がありますか？

- 1  いつも  
 2  ほとんどの時  
 3  時々  
 4  ほとんどない/まれに

問14 総じて、以下の各項目についてあなたのパートナーはどのような影響を及ぼしていると思いますか？

	非常に 良い影響	いづらか 良い影響	いづらか 悪い影響	非常に 悪い影響
a. あなたの性欲	<input type="checkbox"/> <sup>1</sup>	<input type="checkbox"/> <sup>2</sup>	<input type="checkbox"/> <sup>3</sup>	<input type="checkbox"/> <sup>4</sup>
b. あなたの性的活動の頻度	<input type="checkbox"/> <sup>1</sup>	<input type="checkbox"/> <sup>2</sup>	<input type="checkbox"/> <sup>3</sup>	<input type="checkbox"/> <sup>4</sup>

問15 あなたは性的活動の最中に、どれくらいの頻度でもっと求める気分になりますか？

- 1  全くない
- 2  ほとんどない
- 3  時々
- 4  たいてい
- 5  いつも

問16 あなたはどれくらいの頻度で性欲がありますか？これはセックスをしたくなる、性的なことを考えたり空想したりする、などを含みます。

- 1  毎日
- 2  週1回程度
- 3  月1回程度
- 4  月1より少ない
- 5  ない

問17 あなたの性欲や関心のレベル（程度）はどれくらいですか？

- 1  非常に高い
- 2  高い
- 3  ふつう
- 4  低い
- 5  非常に低い、または全くない

問18 尿や便の漏れや、膣内のふくらみ（脱出）に対する不安は、どれくらいあなたの性的活動を避ける原因になりますか？

- 1  全くない
- 2  少し
- 3  多少
- 4  とても

問19 以下の各項目において、あなたのセックスライフについてどのように感じているかを、1から5までの中で最も良く表わす数字に○をつけて下さい。

		評価					
a	満足	1	2	3	4	5	不満足
b	十分	1	2	3	4	5	不十分
c	自信がある	1	2	3	4	5	自信がない

問20 以下の各項目に、あなたはどれくらい強く同意しますか？

	強く 同意する	いくらか 同意する	あまり 同意しない	全く 同意しない
a. 私のセックス・ライフに欲求不満を感じる	<input type="checkbox"/> <sup>1</sup>	<input type="checkbox"/> <sup>2</sup>	<input type="checkbox"/> <sup>3</sup>	<input type="checkbox"/> <sup>4</sup>
b. 失禁や骨盤臓器脱のために性的に劣っていると感じる	<input type="checkbox"/> <sup>1</sup>	<input type="checkbox"/> <sup>2</sup>	<input type="checkbox"/> <sup>3</sup>	<input type="checkbox"/> <sup>4</sup>
c. 私のセックス・ライフについて恥ずかしいと感じる	<input type="checkbox"/> <sup>1</sup>	<input type="checkbox"/> <sup>2</sup>	<input type="checkbox"/> <sup>3</sup>	<input type="checkbox"/> <sup>4</sup>
d. 失禁や骨盤臓器脱が私のセックス・ライフに及ぼしている影響のために憤りを感じる	<input type="checkbox"/> <sup>1</sup>	<input type="checkbox"/> <sup>2</sup>	<input type="checkbox"/> <sup>3</sup>	<input type="checkbox"/> <sup>4</sup>

性的活動ありの人に対する質問はこれで終了です。  
ご協力ありがとうございました。

## 文 献

- Rosen R, Brown C, Heiman J, Leiblum S, Meston C, Shabsigh R, Ferguson D and D'Agostino R Jr: The Female Sexual Function Index (FSFI): a multidimensional self-report instrument for the assessment of female sexual function. *J Sex Marital Ther*, **26**, 191—208, 2000.
- Quirk FH, Heiman JR, Rosen RC, Laan E, Smith MD and Boolell M: Development of a sexual function questionnaire for clinical trials of female sexual dysfunction. *J Womens Health Gend Based Med*, **11**, 277—289, 2002.
- Rogers RG, Kammerer-Doak D, Villarreal A, Coates K and Qualls C: A new instrument to measure sexual function in women with urinary incontinence or pelvic organ prolapse. *Am J Obstet Gynecol*, **184**, 552—558, 2001.
- Rogers RG, Coates KW, Kammerer-Doak D, Khalsa S and Qualls C: A short form of the Pelvic Organ Prolapse/Urinary Incontinence Sexual Questionnaire (PISQ-12). *Int Urogynecol J*, **14**, 164—168, 2003.
- 小谷俊一：女性性機能障害の臨床。日性会誌, **22**, 1—18, 2007.
- 高橋 都：わが国で活用できる女性性機能尺度の紹介—Sexual Function Questionnaire 日本語 34 項目版と Female Sexual Function Index 日本語版。日性会誌, **29**, 21—35, 2011.
- 大川玲子, 大石剛子, 前田知子, Symonds T：女性性機能障害に関する調査票の日本語版作成における言語的妥当性の検討。日性会誌, **23**, 80—91, 2002.
- Rogers RG, Rockwood TH, Constantine ML, Thakar R, Kammerer-Doak DN, Pauls RN, Parekh M, Ridgeway B, Jha S, Pitkin J, Reid F, Sutherland SE, Lukacz ES, Domoney C, Sand P, Davila GW and Espuna Pons ME: A new measure of sexual function in women with pelvic floor disorders (PFD): the Pelvic Organ Prolapse/Incontinence Sexual Questionnaire, IUGA-Revised (PISQ-IR). *Int Urogynecol J*, **24**, 1091—1103, 2013.
- Laumann EO, Paik A and Rosen RC: Sexual dysfunction in the United States: prevalence and predictors. *JAMA*, **281**, 537—544, 1999.
- Salonia A, Zanni G, Nappi RE, Briganti A, Deho F, Fabbri F, Colombo R, Guazzoni G, Girolamo VD, Rigatti P and Montorsi F: Sexual dysfunction is common in women with lower urinary tract symptoms and urinary incontinence: Results of a cross-sectional study. *Eur Urol*, **45**, 642—648, 2004.
- Ponholzer A, Roehlich M, Racz U, Temml C and Madersbacher S: Female sexual dysfunction in a healthy Austrian cohort: prevalence and risk factors. *Eur Urol*, **47**, 366—374, 2005.
- Rosen RC, Riley A, Wagner G, Osterloh IH, Kirkpatrick J and Mishra A: The international index of erectile function (IIEF): a multidimensional scale for assessment of erectile dysfunction. *Urology*, **49**, 822—830, 1997.
- Takahashi M, Inokuchi T, Watanabe C, Saito T and Kai I: The Female Sexual Function Index (FSFI): de-

- velopment of a Japanese version. *J Sex Med*, **8**, 2246—2254, 2011.
- 14) Hayes RD, Dennerstein L, Bennett CM, Sidat M, Gurrin LC and Fairley CK: Risk factors for female sexual dysfunction in the general population: exploring factors associated with low sexual function and sexual distress. *J Sex Med*, **5**, 1681—1693, 2008.
  - 15) Weber AM, Walters MD, Schover LR and Mitchinson A: Sexual function in women with uterovaginal prolapsed and urinary incontinence. *Obstet Gynecol*, **85**, 483—487, 1995.
  - 16) Temml C, Haidinger G, Schmidbauer J, Schatzl G and Madersbacher S: Urinary incontinence in both sexes: prevalence rates and impact on quality of life and sexual life. *Neurourol Urodyn*, **19**, 259—271, 2000.
  - 17) Gordon D, Groutz A, Sinai T, Wiezman A, Lessing JB, David MP and Aizenberg D: Sexual function in women attending a urogynecology clinic. *Int Urogynecol J Pelvic Floor Dysfunct*, **10**, 325—328, 1999.
  - 18) Barber MD, Visco AG, Wyman JF, Fantl JA and Bump RC: Continence Program for Women Research Group. Sexual function in women with urinary incontinence and pelvic organ prolapse. *Obstet Gynecol*, **99**, 281—289, 2002.
  - 19) Rogers GR, Villarreal A, Kammerer-Doak D and Qualls C: Sexual function in women with and without urinary incontinence and/or pelvic organ prolapse. *Int Urogynecol J*, **12**, 361—365, 2001.
  - 20) Sutherst JR: Sexual dysfunction and urinary incontinence. *Br J Obstet Gynaecol*, **89**, 387—388, 1979.
  - 21) Handa VL, Harvey L, Cundiff GW, Siddique SA and Kjerulff KH: Sexual function among women with urinary incontinence and pelvic organ prolapse. *Am J Obstet Gynecol*, **191**, 751—756, 2004.
  - 22) Ghezzi F, Serati M, Cromi A, Uccella S, Triacca P and Bolis P: Impact of tension-free vaginal tape on sexual function: results of a prospective study. *Int Urogynecol J Pelvic Floor Dysfunct*, **17**, 54—59, 2006.
  - 23) Haase P and Skibsted L: Influence of operations for stress incontinence and/or genital descensus on sexual life. *Acta Obstet Gynecol Scand*, **67**, 659—661, 1988.
  - 24) Filocamo MT, Serati M, Frumenzio E, Li arzi V, Cattoni E, Champagne A, Salvatore S, Nicita G and Costantini E: The impact of mid-urethral slings for the treatment of urodynamic stress incontinence on female sexual function: a multicenter prospective study. *J Sex Med*, **8**, 2002—2008, 2011.
  - 25) de Tayrac R, Devoldere G, Renaudie J, Villard P, Guilbaud O and Eglin G; French Ugytex Study Group: Prolapse repair by vaginal route using a new protected low-weight polypropylene mesh: 1-year functional and anatomical outcome in a prospective multicentre study. *Int Urogynecol J Pelvic Floor Dysfunct*, **18**, 251—256, 2007.
  - 26) Maaaita M, Bhaumik J and Davies AE: Sexual function after using tension-free vaginal tape for the surgical treatment of genuine stress incontinence. *BJU Int*, **90**, 540—543, 2002.
  - 27) Mazouni C, Karsenty G, Bretelle F, Bladou F, Gannerre M and Serment G: Urinary complications and sexual function after the tension-free vaginal tape procedure. *Acta Obstet Gynecol Scand*, **83**, 955—961, 2004.
  - 28) Sen I, Onaran M, Tan MO, Acar C, Camtosun A, Sozen S and Bozkirli I: Evaluation of sexual function in women with overactive bladder syndrome. *Urol Int*, **78**, 112—115, 2007.
  - 29) Rogers R, Bachmann G, Jumadilova Z, Sun F, Morrow JD, Guan Z and Bavendam T: Efficacy of tolterodine on overactive bladder symptoms and sexual and emotional quality of life in sexually active women. *Int Urogynecol J Pelvic Floor Dysfunct*, **19**, 1551—1557, 2008.
  - 30) Urwitz-Lane R and Ozel B: Sexual function in women with urodynamic stress incontinence, detrusor overactivity, and mixed urinary incontinence. *Am J Obstet Gynecol*, **195**, 1758—1761, 2006.
  - 31) 本間之夫, 後藤百万: Overactive bladder questionnaire (OAB-q) の日本語版の作成と言語的妥当性の検討. *日本排尿機能会誌*, **17**, 241—249, 2006.

LINGUISTIC VALIDATION OF JAPANESE VERSION OF PROLAPSE/URINARY INCONTINENCE  
SEXUAL QUESTIONNAIRE, IUGA-REVISED (PISQ-IR)

Hikaru Tomoe<sup>1)</sup>, Miyabi Inoue<sup>2)</sup>, Yasusuke Kimoto<sup>3)</sup>, Koichi Nagao<sup>4)</sup>, Yukio Homma<sup>5)</sup>,  
Satoru Takahashi<sup>6)</sup>, Mia Kobayashi<sup>7)</sup> and Shunya Ikeda<sup>8)</sup>

<sup>1)</sup>*Department of Pelvic Reconstructive Surgery & Urology, Tokyo Women's Medical University Medical Center East*

<sup>2)</sup>*Department of Gynecology, Miyabiurogyne Clinic*

<sup>3)</sup>*Department of Urology, Spinal Injuries Center*

<sup>4)</sup>*Department of Urology, Nihon University School of Medicine*

<sup>5)</sup>*Department of Urology, Toho University School of Medicine*

<sup>6)</sup>*Department of Urology, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo*

<sup>7)</sup>*Graduate School of Nursing, Chiba University*

<sup>8)</sup>*School of Pharmacy, International University of Health and Welfare*

**Abstract:**

(Purpose) To translate the Prolapse/Urinary Incontinence Sexual Questionnaire, IUGA-Revised (PISQ-IR) into Japanese and evaluate the linguistic validation of the translated PISQ-IR.

(Methods) The translation and evaluation of PISQ-IR were performed through 3 steps: forward translation based on 2 urologists and discussed by another 4 urologists, 1 pharmacoeconomist and 1 nurse; the community review process consists of conducting one-on-one cognitive interviews with 20 patients by a professional interviewer; backward translation by a native English speaker, which was negotiated with the PISQ-IR Working Group comprised original authors in International Urogynecological Association (IUGA).

(Results) The PISQ-IR Working Group generally approved our translation and had 2 major concerns in the Japanese version; 1) "disagree" in every sentence of English version was not translated into Japanese, and 2) the Japanese expression in "sexual desire" should be more emotional. The former concern was approved by explaining that Japanese does not have the word which is the equivalent of "disagree", and "don't agree" is always used instead of "disagree". The latter concern was compromised by switching to a translation using emotional words.

(Conclusion) The Japanese version of PISQ-IR was translated in a linguistically valid manner. It would be equivalent to the original English questionnaire. It may provide a tool to assess sexual function for Japanese women with prolapse, urinary incontinence and/or fecal incontinence in an internationally harmonized fashion.

(Jpn. J. Urol 105(3): 102-111, 2014)

**Keywords:** female sexual dysfunction, questionnaire, linguistic validation

Received: October 20, 2013, Accepted: December 3, 2013

© 2014 The Japanese Urological Association